

## 1 学校評価の目的

今年度の教育活動その他の学校運営の状況について「児童生徒」、「保護者」、「職員」による評価を行ない、結果に基づく本校の更なる教育水準の向上、学校運営の改善を図るために必要な具体的な方法を検討するためにアンケート調査を行った。

## 2 実施状況

- (1) 令和4年度校務運営会議による質問項目の検討
- (2) アンケートの実施
- (3) アンケートの回収
- (4) 結果の整理
- (5) 分析

## 3 アンケート結果

### (1) 児童生徒

一番重要視しなければならない児童生徒の回答は言語表出・文字表記が可能な児童生徒に限られることから、全容を捉えることの限界を加味し、少人数の意見でもその意見を共有し、対応を検討する。

ア 回収の状況 32名の回収（回収率25%）

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目に対して「はい」「いいえ」「どちらともいえない」で回答、集計している。

ウ アンケートの概要

#### (ア) 児童生徒アンケート

共通項目として学校生活に関する7項目、対象生徒のみの寄宿舎生活に関する2項目について3件法により、また、学校生活および寄宿舎生活について自由記述による2項目のアンケートを実施した。

共通項目7項目の肯定評価（はい）が否定評価（いいえ）を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

#### (イ) 共通7項目（学校生活に関する項目）について

- ① 肯定評価：90%以上→7項目中3項目 80%台 →7項目中1項目  
70%台 →7項目中2項目 50%台 →7項目中1項目

- ② 肯定評価割合が上位なもの（ ）内は前年度  
学校生活に関する項目

・Q6『先生は、地震や火事が起きたときに、安全に身を守る方法を教えてくださいか』  
肯定評価 94%(88%) 否定評価 0%(2%) どちらともいえない 6%(10%)

・Q5『先生は、あなたのやりたいことを励ましてくれますか』  
肯定評価 91%(94%) 否定評価 3%(2%) どちらともいえない 6%(4%)

・Q4『先生は、あなたに健康や命の大切さを教えてくださいか』  
肯定評価 90%(80%) 否定評価 0%(5%) どちらとも言えない 10%(20%)

- ③ 肯定評価割合が下位なもの（ ）内は前年度  
学校生活に関する項目

・Q2『あなたは、先生に何でも話し、相談できますか。』  
肯定評価 56%(86%) 否定評価 13%(10%) どちらともいえない 31%(8%)

(ウ) 寄宿舎生活に関する項目 ( ) 内は前年度

・Q9『あなたは、寄宿舎で安心して生活ができていますか』

肯定評価 90%(86%) 否定評価 10%(0%) どちらともいえない 0%(14%)

・Q10『寄宿舎の先生に気軽に話したり、相談したりできますか』

肯定評価 80%(79%) 否定評価 0%(7%) どちらともいえない 20%(14%)

(エ) この1年で一番頑張ったこと

<小学部>

・プール ・けやき祭での発表

<中学部>

・テストに向けての勉強 ・けやき祭 ・けやき祭で自分の役割を果たした

・全国ボッチャ選抜甲子園 ・岩手県パラ陸上記録会 ・学校に来る時 ・給食と歯磨き

・作業学習 ・数学 ・執行部活動 ・朝の会 ・執行部で司会を頑張りました

<高等部>

・教科(総合、国語) ・技能認定会 ・教科(体育) ・工芸班の作業 ・学校に来ること  
・体育のモルック ・実習でお仕事を頑張った ・トレーニングや漢字検定です

・数学の勉強 ・実習 ・ボッチャ甲子園, 全国障害者スポーツ大会に向けての練習。スポーツを通して人間関係を広めることができた。

(2) 保護者

ア 回収の状況 78名の回収(回収率62%)

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記のA～Eの各評価の人数を割合として算出する。

A：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

E：判断できない。

\*考察の方法として特に、肯定評価(A+B) [%] が否定評価(C+D) [%] を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 保護者アンケート

共通項目として学校運営、教育活動に関する12項目、加えて寄宿舎生活に関する3項目を加えた全15項目について、5件法によるアンケートを実施した。評価については、評価理由の自由記述を加えた。

共通項目12項目の肯定評価(A+B) が否定評価(C+D) を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 質問全項目15項目(うち寄宿舎生活に関して3項目)

① 肯定評価：90%以上→15項目中11項目 80%台→15項目中3項目  
50%台→15項目中1項目

② 肯定評価割合が上位なもの ( ) 内は前年度

・Q3『おさんは、学校の学習活動に意欲的に取り組んでいますか』

肯定評価 100%(92%)

- ・Q11『学校からのお知らせや学級通信等の情報提供は分かりやすいものになっていますか』  
肯定評価 100%(95%) 否定評価 0%(4%) 判断できない 0%(1%)
- ・Q7『担任は、学校での学習内容や学習活動を適切に説明していますか』  
肯定評価 97%(97%) 否定評価 3%(3%) 判断できない 0%(0%)
- ・Q8『担任は、ご家庭と十分に連携を図っていますか』  
肯定評価 97%(98%) 否定評価 3%(2%) 判断できない 0%(0%)
- ③ 肯定評価割合が下位なもの ( ) 内は前年度
  - ・Q11『ホームページの内容は充実したものになっていますか』  
肯定評価 56%(63%) 否定評価 22%(11%) 判断できない 22%(26%)
  - ・Q9『学校は、いじめの予防や早期発見について、積極的に取り組んでいますか。』  
肯定評価 81%(84%) 否定評価 5%(5%) 判断できない 14%(11%)
  - ・Q10『学校は、お子さんの将来や進路の実現に向けて、必要な情報提供をしていますか。』  
肯定評価 86%(86%) 否定評価 14%(6%) 判断できない 0%(8%)

### (3) 職員

ア 回収の状況 117名の回収(回収率91%)

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記のA～Dの各評価の人数を割合として算出する。

A：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

\* 考察の方法として特に、肯定評価(A+B) [%] が否定評価(C+D) [%] を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 教職員アンケート

共通項目として学校運営、教育活動、研修に関する14項目、加えて働き方改革に関する6項目を加えた全20項目について、4件法によるアンケートを実施した。評価については、評価理由の自由記述を加えた。

学校運営等に関する14項目の肯定評価(はい)が否定評価(いいえ)を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 学校運営等に関する14項目(働き方改革に関する項目を除く)について

① 肯定評価：90%以上→12項目 80%台 →2項目

② 肯定評価割合が上位なもの ( ) 内は前年度

- ・Q1『私は、学校経営計画・重点項目に沿って教育活動(学校業務)を行っている』  
肯定評価 100%(98%) 否定評価 0%(1%)

- ・Q3『私は、学校経営計画・重点項目に沿って教育活動(学校業務)を行っており、児童生徒一人一人の個別の指導計画に沿って学習目標を明確にして指導・支援をしている。』  
肯定評価 99%(96%) 否定評価 1%(1%)

- ・Q4『私は、児童生徒間の触れ合い、関わりを大切にし、悩みや困り感に寄り添い、人間関係の育成に努めている。』  
肯定評価 99%(96%) 否定評価 1%(1%)

- ・Q5 『私は何かあった時に、「チーム学校」の考えで、問題を一人で抱え込まないよう「報告・連絡・相談」に努めている。』  
肯定評価 99%(97%) 否定評価 1%(3%)
- ・Q7 『私は、児童生徒が生き生きと学習活動に参加できるように努めている。』  
肯定評価 99%(93%) 否定評価 1%(1%)
- ③ 肯定評価割合が下位なもの ( ) 内は前年度
  - ・Q9 『交流及び共同学習は、児童生徒にとって有意義な学習活動になっている。』  
肯定評価 84%(82%) 否定評価 16%(7%)
  - ・Q8 『私は、授業等において、AT・ICT教材を個々の児童生徒の実態に応じ工夫し、活用している』  
肯定評価 85%(77%) 否定評価 15%(9%)

#### 4 考察

##### (1) 肯定評価と否定評価の割合（共通項目総計）

	回収率	肯定評価	否定評価	どちらともいえない 判断できない	評価割合
児童生徒	25%	81%	5%	14%	肯定評価>否定評価
保護者	62%	90%	6%	4%	肯定評価>否定評価
職員	91%	96%	4%		肯定評価>否定評価

児童生徒、保護者、職員ともに肯定評価が否定評価を高い割合で上回った。

##### (2) 各評価における分析

###### ア 児童生徒

- ・Q1 『あなたは、学校で学習することが楽しいですか』の肯定評価の割合が、昨年度の肯定評価の割合より8%低い値となっている。児童生徒への学習支援を考える上で重要な点であると考えられる。
- ・Q2 『あなたは、先生に何でも話し、相談できますか』については、肯定的評価の割合が56%「どちらともいえない」との回答が31%の割合で示されている。回答対象を踏まえると、思春期にある生徒たちの相談支援を考える上で重要な点であると考えられる。
- ・Q7 『あなたは、他の学校との交流及び共同学習が楽しいですか』については、肯定的評価の割合が71%であった。昨年度の肯定評価の割合よりも7%高い値となっている。コロナ禍によるやりにくさはあるものの、活動について工夫しながら実施されてきているものと考えられる。
- ・小学部の結果の中では「頑張ったこと」の質問に対し、「プール」や「けやき祭の発表」など具体的な活動に達成感を感じている様子が見られる。
- ・中学部、高等部では「頑張ったこと」の質問に対し、教科等の学習、作業、現場実習等が挙げられた。また、「ボッチャ甲子園」や「障害者スポーツ大会」、「技能認定会」のように対外的な目標に対する取組についての記述も見られている。
- ・対象生徒のみによる寄宿舎生活に関する質問項目からは、2項目とも昨年度の割合を上回る肯定評価となっている。寄宿舎生活の中でできるようになったことの自由記述では、「洗濯」や「掃除」など、身の回りのことができるようになったことについて示されている。寄宿舎生活を通して、様々な生活スキルを身に付けられたことの実感、充実感が得られていると考えられる。

###### イ 保護者

- ・Q3 『お子さんは、学校の学習活動に意欲的に取り組んでいますか』及びQ11『学校からのお知らせや学級通信等の情報提供は、分かりやすいものになっていますか。』の肯定評価の割合が100%となっている。児童生徒が意欲的に学習活動に取り組んでおり、またその様子が、保

護者にしっかり伝えていることが評価されたものと考えられる。

- ・Q2 『すぐメールや災害伝言ダイヤル訓練は有効だと思いますか』の肯定評価の割合が95%ということで昨年度に対して7%高い値となった。メールによる情報発信の有効性や災害の時の訓練についての必要性が理解されてきているものと考えられる。
- ・Q9 『学校は、いじめの予防や早期発見について、積極的に取り組んでいますか。』の肯定評価の割合が81%と昨年度より3%低い値であった。記述意見について確認しながら、より積極的な取り組みが必要であると考ええる。
- ・Q11 『ホームページ（フェイスブックを含む）の内容は充実したものになっていますか』の肯定評価の割合が56%にとどまっている。記述意見の中には、見たことがないことの他に、情報発信に関する意見も見られた。ホームページの情報発信（内容を含む）の充実を図っていくことが必要であると考ええる。
- ・寄宿舎生の保護者のみによる質問項目については、肯定評価の割合が3項目とも90%を超える高い値となっている。寄宿舎生活の充実について評価されているとともに、家庭との連携が十分に取れていると考えられる。

#### ウ 職員

- ・Q1 『私は、学校教育計画・重点項目沿って教育活動（学校業務）を行っている』については、肯定評価が100%であった。それぞれが、本校の目指す方向性を意識し、業務に当たっていると考えられる。
- ・Q8 『私は、授業等において、AT・ICT教材を個々の児童生徒の実態に応じ工夫し、活用している』については、肯定評価の割合が85%となった。昨年度の77%よりも7%高くなっているが、否定評価の割合も15%となっている。今後も校内研修会を通じて、AT・ICT教材活用の実践力を高めていく必要があると考ええる。
- ・Q9 『交流及び共同学習は、児童生徒にとって有意義な学習活動になっている』については、肯定評価の割合が84%（前年度82%）であった。自由記述の中には、直接交流ができるようになり、交流及び共同学習の有意義な取り組みができたとの肯定評価の記述もあるが、交流相手校とのねらい等の共有の難しさ等についての否定評価に係る記述も複数あった。改めて交流先との間で確認しながら、ねらいの達成につながる具体的活動について検討していく必要があると考えられる。